

二万人目の記念に「はい、チーズ！」



九月十二日(月)、植田正治写真美術館で開催中の「HOMAGE オマージュ・植田正治」に捧ぐ、福山雅治／菊池武夫／堀内誠一の入場者数が二万人を突破しました。

記念すべき二万人目の来場者は、横浜市からお越しの安西さんご一家でした。安西さんには、植田正治写真美術館の住田町長から、真美術財団理事長の住田町長から展覧会図録、ポスター、ポストカード、オルゴールなどが記念品として贈呈されました。



戦没者への献花

安西さんは、「二万人目の来場者となり、ビックリしています。展覧会に来てよかったです。山陰には初めて来ましたが、大山をはじめ、景色がすばらしいところですね。」と感想を述べられました。

この展覧会は今月十六日まで開催しています。期間中、一人でも多くの方のご来場をお待ちしています。

いつまでも元気でね

敬老の日の贈り物

九月十二日(月)、伯耆町内に在住の九十九歳以上の方々に、敬老の日の贈り物として肌布団が贈られました。

今年度贈り物を受け取られた方々は五名おられ、九十九歳の方が二名、百歳以上の方が三名でした。

住田町長から直接贈り物を受け取られた方々は、とても嬉しそうな表情をされていました。



贈り物を受け取りニッコリ

来場者数二万人突破!!

「HOMAGE」展



戦没者へ追悼の意を込めて

伯耆町戦没者追悼式

九月十三日(火)、鬼の館ホールで平成十七年度伯耆町戦没者追悼式が開催されました。

伯耆町として初めてのこの式には、戦没者の遺族をはじめ、町関係者が多数参列されました。

全員での黙とうの後、住田町長、伯耆町遺族会長亀田衛

さん、伯耆町議会議長西郷一義さんによる追悼の辞、献花と式は進みました。

住田町長は、「歳月が経つとも、遺族にとつて家族を失った悲しみは忘れられないものとして残ります。その悲しみを乗り越え、遺族は今日まで生きてきました。英霊の心をしっかりと捉え、これから先

戦争のない世の中をめざしていきましよう。」とあいさつをされました。

そして式の最後に、伯耆町遺族会副会長大江昇さんが、「この式の開催を嬉しく思います。終戦から六十年経った今でも、家族を失った悲しみは忘れられません。我々遺族はひとつになつて、平和を守らなければなりません。」と謝辞を述べられました。